

園芸療法用フラワーポットの開発

小川健作*¹ 森本 健*¹ 水野金儀*¹

Development of Flowerpot for Horticultural Therapy

Kensaku OGAWA, Ken MORIMOTO and Kaneyosi MIZUNO

高齢者を対象にした園芸療法用フラワーポットの開発にあたり、園芸作業を念頭にした動作特性を調べ、その結果を踏まえて、フラワーポットを試作した。

- 1) 動作測定の結果、高齢者の女性で 53%、男性で 75%の人がしゃがみ姿勢が出来なかった。また、しゃがみ、着座、起立の 3 姿勢とも、若年者は測定高さによって指先の届く距離が変化し、低い測定域で 80~105cm、高い測定域で 70~80cm の値を示したが、高齢者においては、測定高さによる変化は少なく 50~70cm 範囲であった。
- 2) フラワーポットの形状は、動作測定の結果を踏まえるとともに、5~6 名が同時に園芸作業をすることを前提にして、ポットの部分は幅 180cm 奥行き 90cm の楕円形とし、深さは 15cm とした。高さについては、起立姿勢の他、椅子や車椅子を使用した状態でも作業でき、更に、園芸作業の過程で身体機能の回復度合いに応じて、65~90cm の範囲で任意に変えられるようにした。

*¹ 応用技術部